指導者（保護者）として大切にしたいこと（その３１）
　　～「東京パラリンピック　谷真海選手」～

２０２１年９月吉日
Ｕ１２部会広島地区ＳＶ
大庭　浩資

広島県バスケットボール協会Ｕ１２部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。
日本全国において新型コロナウイルス感染が拡大する中、広島県においても８月２７日から９月１２日まで緊急事態措置が実施されています。今後も感染予防のため、「新しい生活様式」（マスクの着用、咳エチケットや手洗い、３密を避けるなどの対策）をより一層徹底しなければなりません。
今はとにかく、選手のみなさんが健康であることが一番です。

さて、東京オリンピックに続いて、８月２４日から東京パラリンピックが行われていますが、それぞれの競技で持てる力を出し切る選手の姿に、多くの感動を覚えるのは私だけではないと思います。
そこで今回は、このパラリンピックの女子トライアスロン競技に出場した谷真美（たにまみ）さんについて紹介します。
まずパラリンピックについての豆知識です。
パラリンピックは、身体、視覚、知的障がいなどを抱えるトップアスリートが参加する大会ですが、なぜ「パラリンピック」と呼ばれるかご存知ですか？
これは「パラプレジア＝下半身まひ」という言葉からきているそうです。
１９４８年にイギリスの病院で行われたアーチェリー大会がパラリンピックの起源です。この大会は、第２次世界大戦で負傷した車いす患者のリハビリや社会復帰を目的に開催されました。この時の車いす患者の多くが、「パラプレジア＝下半身まひ」であったことから、パラリンピックと呼ばれるようになったそうです。
パラリンピックの第１回大会は、１９６０年ローマ大会で、４年後の１９６４年に東京大会が開催されました。今大会は５７年ぶり２度目の東京開催でしたが、史上初めて、同じ都市で２度目の開催となりました。
次に競技、種目ですが、２２競技５３９種目です。東京オリンピックの３３競技３３９種目に比べ２００種目多いのは、障がいの種類や程度に応じて細かく「クラス分け」が実施されるためです。公平さを保つため、同じグループに分類された選手で競い合います。例えば陸上はクラスが細分化され、男子１００メートルだけで１６種目も行われます。

それでは本題に移ります。
今回、開会式の旗手を務め、女子トライアスロンに出場した谷真美選手ですが、陸上走り幅跳びの選手として、過去にパラ３大会に出場しています。そして今回、結婚・出産の後、トライアスロンに種目を変えての出場は称賛に値します。開会式の後「大会開催も自分の出場もすべてが奇跡と感じています。旗手として

開会式に参加すること自体、夢のようです」とコメントしました。
　レースの結果は、出場１０人の最下位でしたが、０．７５ｋｍを泳ぎ、義足を装着して２０ｋｍの距離を自転車で走り、さらに５ｋｍの距離を、歯を食いしばって走る姿は、心の底から「がんばれ！！」と応援したくなるものでした。そして最下位ではありましたが、ゴール手前でサングラスをとって手を振りながら笑顔でゴールする姿を見ていると、おもわず涙がこぼれました。
　この谷選手ですが、谷真美といってもピンとこないかもしれませんが、佐藤真美といえば「あっ！」と思われる方も多いでしょう。
　２０１３年のＩＯＣ総会で、滝川クリステルさんが『お・も・て・な・し』を手話で表現したスピーチは有名ですよね。実はこの総会で谷（佐藤）さんも、パラ・アスリートとして、パラリンピック誘致のためのスピーチを行っています。
　以下はその内容です。
　谷（佐藤）さんは、本当に厳しい状況を乗り越えて、この日を迎えていることが分かります。

**　このコロナ禍の中、バスケットボールを愛する選手の皆さんにとっても、我々大人にとっても非常に厳しい状況ではあります。しかし、感染で苦しむ人やその家族、また自らの感染リスクと隣り合わせの中で、強い使命感のもと、最前線で仕事をされている医療従事者の方々がおられる中、私たち一人一人が、感染予防に最大限努めなければなりません。**
**　今の状況が終息し、思い切りバスケットボールができる日が早く来ることを願いながら、お互いに力を合わせて頑張りましょう。**

　１９歳の時に、私の人生は一変しました。
　私は陸上選手で、水泳もしていました。またチアリーダーでもありました。でも、初めて足首に痛みを感じてから、たった数週間のうちに、骨肉腫により足を失ってしまいました。もちろん、それは過酷なことで、絶望の淵に沈みました。ですが、私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、『私にとって大切なのは・・・私が持っているものであって、私が失ったものではない』ということを学びました。
　しかし、２０１１年３月１１日、津波が私の故郷の町を襲いました。６日もの間、私は自分の家族が無事でいるかどうか分かりませんでした。家族を見つけ出した時、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりませんでした。
　私たちは一緒になってスポーツ活動を通して、自信を取り戻すお手伝いをしました。そのとき初めて、私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。『新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人々を結びつける力』。
　私たちが目にしたものは、かつて日本では見られなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。そして、日本が目の当たりにしたのは、これらの価値・・・卓越、友情、尊敬　が言葉以上の大きな力を持つということです。